

研修機関	医療法人社団仁智会 介護老人保健施設 春日町ケアセンター
研修期間	平成17年11月1日～11月30日
所属・氏名	石川県立松任高等学校 山田 収

I 研修目的

- ・介護老人施設での業務を体験することにより、自分自身の資質向上を図るとともに、社会人としての役割を見つめ直す機会とする。
- ・利用者とのふれあいや介護を通して、老人介護の大切さを知り、高齢化社会に対する理解を深める。
- ・研修で得られた成果を今後の教育活動に役立てる。

II 研修内容

認知症の高齢者が起居する8階フロアに配属され、生活援助を担当した。

1 生活援助

- ①食事介助（湯茶の用意 食堂への誘導 食事介助など）
- ②清拭・入浴介助（入浴誘導 ドライヤーでの整髪など）
- ③排泄介助
- ④コミュニケーション
- ⑤レクリエーション
- ⑥環境整備

2 リハビリ・レクリエーションの見学

- ①日常のリハビリテーション
- ②音楽療法
- ③レクリエーション
民謡教室、書道、舞踊ショー、カラオケ

3 介護老人施設の人的サービス

- ①ケアプランのあり方
- ②利用者一人ひとりについてのきめ細かな理解と対応
- ③職員の協力体制
- ④挨拶・笑顔の徹底
- ⑤清潔保持の徹底

III 研修成果

1 利用者に対するきめ細かな対応

利用者の介助の必要度はさまざまである。ほとんど手がかからない人から、自分ではまったく食事のできない人までいる。職員の対応で感心したのは、まず第一に入所者一人ひとりについての健康状態が正確に記録され、引き継がれていくことであった。前日の状況が詳細に把握できる。

われわれも生徒一人ひとりの状況を正確に把握し、関りを持つ職員全員がその情報を共有すべきだと思った。

2 コミュニケーションの大切さ

挨拶と笑顔の徹底。人と人とのコミュニケーションには欠かせないことを痛感した。ともすれば笑顔を欠くことの多いわたしたちの職場だが、この点についても見習いたい。また、コミュニケーションでは、文字どおり、相手の目線に立って意思の疎通を図る必要があることも学んだ。排泄・食事の介助はもちろん、何をするときでも、まずは、しゃがんで「声かけ」をし、意思の疎通を図るところから始まる。意思の疎通が十分でないと、ちょっとした介助でもうまくゆかない。これは貴重な体験で、あらためてコミュニケーションの大切さを痛感した。

3 企画・運営の工夫

介護施設ではほぼ毎日、何らかのレクリエーションが行われている。職員が工夫を凝らし、話や軽い体操、なつかしい歌を利用者と一緒に歌ったりする。ボランティアによる音楽演奏などでは、ほんとうに真剣に聞き、楽しんでいる。喫茶室をつくり、利用者をもてなす企画では、妥協せずに最高のものをつくろうとする職員の姿勢に大変感心した。ややもすれば、画一的に流れそうなわれわれの毎日や行事も、一工夫する必要がある、と感じる。

4 職員の協力体制

スタッフの打ち合わせは毎日行われ、それが利用者に対するケアの面で成果として現れている。職員全員が利用者一人ひとりのことを真剣に考えていることは、研修一日目から感じていたことだが、学校現場での自分はこの職員の方々に恥ずかしくないだろうか、と改めて思った。

IV 今後の課題

1 充実したケア

ケアセンター内では、利用者を第一に考えたサービスを行っている。学校現場でも、生徒・保護者の立場に立った教育の提供について、今後工夫していきたい。

2 挨拶・笑顔とコミュニケーション

改めて挨拶と笑顔の大切さを教えられた。ともすれば学校現場では「叱る」「守らせる」という側面で生徒に接することが多いが、なんとかこちらの方面でも生徒とのコミュニケーションを深めたい。

3 一人ひとりに応じたきめ細かな指導

利用者の個性もさまざまである。その中において、個性の強い高齢者に対してもコミュニケーションをしっかりととり、データの蓄積により、個々に応じたきめ細かな介護が実施されている。学校においても見習うべきことが多々あると思う。

4 職員の協力体制

ケアセンターの職員は、互いがどんな仕事をしているのかをよく理解しあっている。学校現場でも校務分掌間で連絡を密にし、生徒本位の教育を提供していかねばならない。

最後になりましたが、1ヶ月の間ご迷惑をおかけし、指導していただいた職員の皆様、十分な介助をできなかった入所者の皆様に心からお詫びを致し、また感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。